

## 令和7年度日本語教員試験の出題内容及びサンプル問題

### Ⅰ. 出題内容

#### Ⅰ.Ⅰ. 出題範囲

日本語教員試験は、養成修了段階で習得しておくべき必要不可欠な基礎的な知識及び技能が網羅的に備わっていることを確認・評価するためのものとする。そのため、出題範囲は「登録日本語教員 実践研修・養成課程コアカリキュラム」（令和6年3月18日 中央教育審議会生涯学習分科会日本語教育部会決定）の養成課程コアカリキュラムにおける必須の教育内容に示された範囲とする。

また、日本語教育の活動分野や学習対象者に応じて求められる分野別の専門性については登録日本語教員の資格取得後も継続的に習得されるものであり、現職日本語教員の初任研修の修了段階で求められるものとして位置付けるため、日本語教員試験においては、分野別の専門性に関する詳細な知識等は問わないものとする。

#### Ⅰ.Ⅱ. 基礎試験の出題内容

基礎試験では、日本語教育を行うために必要となる基礎的な知識及び技能を区分ごとに出題する。

#### Ⅰ.Ⅲ. 応用試験の出題内容

応用試験では、基礎的な知識及び技能を活用した問題解決能力を測定するため、教育実践と関連させて出題することとする。

応用試験の一部は聴解問題とし、日本語学習者の発話や教室での教師とのやりとりなどの音声を用いて、より実際の教育実践に即した問題を出題し、問題解決能力や現場対応能力等を測定する。

令和7年度日本語教員試験 出題範囲

全体目標	一般目標	必須の教育内容	基礎試験 おおむねの 出題割合（※）
社会・文化・地域	①世界と日本	<1>世界と日本の社会と文化	約1～2割
	②異文化接触	<2>日本の在留外国人施策 <3>多文化共生（地域社会における共生）	
	③日本語教育の歴史と現状	<4>日本語教育史 <5>言語政策 <6>日本語の試験 <7>世界と日本の日本語教育事情	
言語と社会	④言語と社会の関係	<8>社会言語学 <9>言語政策と「ことば」	約1割
	⑤言語使用と社会	<10>コミュニケーションストラテジー <11>待遇・敬意表現 <12>言語・非言語行動	
	⑥異文化コミュニケーションと社会	<13>多文化・多言語主義	
言語と心理	⑦言語理解の過程	<14>談話理解 <15>言語学習	約1割
	⑧言語習得・発達	<16>習得過程（第一言語・第二言語） <17>学習ストラテジー	
	⑨異文化理解と心理	<18>異文化受容・適応 <19>日本語の学習・教育の情意的側面	
言語と教育	⑩言語教育法・実習	<20>日本語教師の資質・能力 <21>日本語教育プログラムの理解と実践 <22>教室・言語環境の設定 <23>コースデザイン <24>教授法 <25>教材分析・作成・開発 <26>評価法 <27>授業計画 <29>中間言語分析 <30>授業分析・自己点検能力 <31>目的・対象別日本語教育法	約3～4割
	⑪異文化間教育とコミュニケーション教育	<32>異文化間教育 <33>異文化コミュニケーション <34>コミュニケーション教育	
	⑫言語教育と情報	<35>日本語教育とICT <36>著作権	
言語	⑬言語の構造一般	<37>一般言語学 <38>対照言語学	約3割
	⑭日本語の構造	<39>日本語教育のための日本語分析 <40>日本語教育のための音韻・音声体系 <41>日本語教育のための文字と表記 <42>日本語教育のための形態・語彙体系 <43>日本語教育のための文法体系 <44>日本語教育のための意味体系 <45>日本語教育のための語用論的規範	
	⑮コミュニケーション能力	<46>受容・理解能力 <47>言語運用能力 <48>社会文化能力 <49>対人関係能力 <50>異文化調整能力	

※応用試験は複数の区分にまたがる横断的な設問とするため、出題割合を示さない。

## 出題範囲の詳細

(登録日本語教員 実践研修・養成課程コアカリキュラム 抜粋)

### 3. 養成課程コアカリキュラム

#### 3-1. 5つの全体目標

##### (1) 社会・文化・地域

日本語教師として、様々な国・地域からの学習者と関係を築き、教育実践を行うために、その背景となる、日本と諸外国の関係や国際社会の実情及び日本の外国人施策など日本の言語・文化・社会の特徴に関する基礎的な知識を有し、それらと日本語教育の実践とを関連づけて考えることができる。

##### (2) 言語と社会

日本語教師として、学習者を取り巻く社会とことばの関係を常に考え続けるために、学習者が言語活動を行う社会とその社会において実際に使用されている言語との関係や、相互理解・相互尊重のためのコミュニケーションのあり方に関する基礎的な知識を有し、それらと日本語教育の実践とを関連づけて考えることができる。

##### (3) 言語と心理

日本語教師として、学習過程で起こる現象や問題、異文化に適応する際に生じる問題など学習者の内面で起こる問題の理解・解決に取り組むために、言語習得の仕組みや方法、異文化受容・適応に関する基礎的な知識を有し、それらと日本語教育の実践とを関連づけて考えることができる。

##### (4) 言語と教育

日本語教師として学習者の学習活動を支援するために、学習者の属性やニーズ等に応じた効果的な教授・評価の仕組みや、学習者を社会とつなげる様々な方略に関する基礎的な知識を有するとともに、それらを日本語教育の実践とを関連づけて考えることができる。

##### (5) 言語

日本語教師として学習者の日本語によるコミュニケーション能力を伸ばす効果的な教育実践を行うために、日本語及び言語一般に関する基礎的な知識及び教育を通じたエンパワーメントを行うためのコミュニケーション能力を有し、それらを日本語教育の実践に活用することができる。

#### 3-2. 一般目標(15の下位区分)とその解説

##### (1) 社会・文化・地域に該当する一般目標(下位区分)とその解説

###### ①世界と日本

日本語教育が必要とされる社会的背景を考えるために、国際社会の実情と日本との関係、日本の社会・

文化、学習者と日本との関係を理解する。

## ②異文化接触

多様な背景を持つ学習者個々に必要とされる日本語教育を考えるために、学習者が日本語を必要とするに至った経緯や、学習者と周囲との接触の状況を理解する。

## ③日本語教育の歴史と現状

学習者に適切に接する態度や学習者の背景及び将来を考えるために、日本語教育の歴史や現状、制度を理解する。

# (2) 言語と社会に該当する一般目標（下位区分）とその解説

## ④言語と社会の関係

学習者の円滑な社会生活を実現するために、社会、文化、政策と言語との関係やそれによって生じる言語の有り様、また社会的な行動を支える社会的・文化的慣習について理解する。

## ⑤言語使用と社会

様々な社会的状況において円滑なコミュニケーションを実現するために、社会や集団における言語・非言語行動の様相や方略について理解する。

## ⑥異文化コミュニケーションと社会

異なる文化・言語を持つ人々が共存する社会の在り方を考えるために、互いの文化・言語に対する態度や言語を用いた人との関係構築について理解する。

# (3) 言語と心理に該当する一般目標（下位区分）とその解説

## ⑦言語理解の過程

効果的な日本語教育を考えるために、学習者の言語情報の処理過程や学習の仕組み、学習の方法について理解する。

## ⑧言語習得・発達

個々の学習者に合わせた日本語教育を考えるために、言語の習得過程や学習者要因、また学習効果を高める方略について理解する。

## ⑨異文化理解と心理

自文化とは異なる環境にある学習者に配慮した指導を考えるために、異文化接触によって生じる問題

とその解決、また動機や不安などの心的側面について理解する。

#### (4) 言語と教育に該当する一般目標（下位区分）とその解説

##### ⑩言語教育法・実習

学習者の日本語能力と求められる日本語教育プログラムの目的や目標を踏まえた日本語教育を考え、日本語教師として自律的に成長する力を養うために、コースを設計する方法、学習項目に合わせた教授法や教材の選択、授業を組み立てるための準備、学習の成果を測る観点と方法、教授能力を高めるための自他の授業分析に必要となる知識及び日本語教育を実践する力を身に付ける。

##### ⑪異文化間教育とコミュニケーション教育

文化の多様性を尊重し、異なる文化背景を持つ者同士の円滑なコミュニケーションを実現するために、文化を異にする者の物事の捉え方やコミュニケーション方略について理解する。

##### ⑫言語教育と情報

効率的で創造的な日本語教育を行うために、学習管理や教材作成等に必要となる ICT 活用方法を知るとともに、情報資源の扱い方について理解する。

#### (5) 言語に該当する一般目標（下位区分）とその解説

##### ⑬言語の構造一般

学習をより効率的なものにするために、言語を分析的に観察する方法を理解し、世界の言語及び日本語を系統的・類型的に捉えるとともに、学習者の言語と日本語学習の関係を理解する。

##### ⑭日本語の構造

日本語そのものに関する知識を学習者に正確に伝えるために、日本語を分析的に捉える方法を理解し、言語教育的な観点から多面的に整理された日本語に関する知識を体系的に身に付ける。

##### ⑮コミュニケーション能力

学習者の日本語によるコミュニケーション能力を育成するために、コミュニケーション能力に関する知識を身に付ける。また、日本語教育を実践する上で必要となるコミュニケーション能力を向上させることができる。

### 3-3. 必須の教育内容と到達目標

一般目標	必須の教育内容とその到達目標
① 世界と日本	<p>&lt;1&gt;世界と日本の社会と文化</p> <p>◎国際的な活動を行う言語教育者としてグローバルな視点から日本語教育を捉えるために、国際社会の情勢・人の移動と日本との関係、日本及び多様な国・地域の社会・文化について理解している。</p>
② 異文化接触	<p>&lt;2&gt;日本の在留外国人施策</p> <p>◎在留外国人の現状やその動向、並びに日本の在留外国人施策について理解している。</p> <p>&lt;3&gt;多文化共生 &lt;地域社会における共生&gt;</p> <p>◎国・地方自治体、地方公共団体の多文化共生施策や地域社会における学習者と周囲との接触の状況を理解している。</p>
③ 日本語教育の歴史と現状	<p>&lt;4&gt;日本語教育史</p> <p>◎日本や他の国・地域との関わりを視野に入れた日本語教育の歴史について理解している。</p> <p>&lt;5&gt;言語政策</p> <p>◎日本や他国の言語政策について理解している。</p> <p>&lt;6&gt;日本語の試験</p> <p>◎学習者のキャリア等を考える上で必要となる日本語能力を評価する試験等について理解している。</p> <p>&lt;7&gt;世界と日本の日本語教育事情</p> <p>◎学習者の日本語学習動機や自国での学習状況を知るために、日本国内及び主要な国・地域の日本語教育の状況を理解している。</p>
④ 言語と社会の関係	<p>&lt;8&gt;社会言語学</p> <p>◎同一言語内における言語変種とその要因及び言語が使用される社会における言語使用の実態や、言語行動を支える社会的・文化的慣習について理解している。</p> <p>&lt;9&gt;言語政策と「ことば」</p> <p>◎社会、文化、政策と言語との関係を理解している。</p>
⑤ 言語使用と社会	<p>&lt;10&gt;コミュニケーションストラテジー</p> <p>◎社会生活における言語活動を達成するための言語的な方略（ストラテジー）や会話</p>

	<p>を成立させるための仕組みについて理解している。</p> <p>&lt;11&gt;待遇・敬意表現 ◎様々な社会的状況において社会や集団において求められる待遇表現について理解している。</p> <p>&lt;12&gt;言語・非言語行動 ◎コミュニケーションにおける言語的な行動及び非言語行動の様相について理解している。</p>
⑥異文化コミュニケーションと社会	<p>&lt;13&gt;多文化・多言語主義 ◎多言語多文化社会について理解し、学習者が日本語を使うことにより社会につながることを意識し、共生社会の実現に向けて日本語教育が果たす役割を教育的観点からも理解している。</p>
⑦言語理解の過程	<p>&lt;14&gt;談話理解 ◎学習活動を効果的に実践するために、談話理解の過程や仕組みについて基礎的な知識を理解している。</p> <p>&lt;15&gt;言語学習 ◎日本語学習支援を効果的に行うために、学習の仕組みや学習環境などの基礎的な知識について理解している。</p>
⑧言語習得・発達	<p>&lt;16&gt;習得過程&lt;第一言語・第二言語&gt; ◎日本語学習支援を効果的に行うために、言語の習得過程や学習者要因について理解している。</p> <p>&lt;17&gt;学習ストラテジー ◎学習ストラテジー等、個々の学習者に合わせた日本語教育を考え、言語学習の効果を高める方法に関して理解し、学習者の自律的な学習を促進することができる。</p>
⑨異文化理解と心理	<p>&lt;18&gt;異文化受容・適応 ◎異文化接触によって学習者に生じる問題とその適応のプロセスについて理解している。</p> <p>&lt;19&gt;日本語の学習・教育の情意的側面 ◎学習に影響を与える心理的要因や、学習者の心的側面における対応に関して理解している。</p>

<p>⑩ 言語教育 法・実習</p>	<p>&lt;20&gt;日本語教師の資質・能力</p> <p>◎日本語教育人材の役割・段階・活動分野など、キャリアパス及び求められる資質・能力について理解している。</p> <p>&lt;21&gt;日本語教育プログラムの理解と実践</p> <p>◎プログラムの構成要素について理解し、日本語教育プログラム全体の中に自身の授業を位置付けることができる。</p> <p>&lt;22&gt;教室・言語環境の設定</p> <p>◎効果的な日本語学習環境を設定できるようになるために、教室形態及び学習環境の教育上の影響・効果について理解している。</p> <p>&lt;23&gt;コースデザイン</p> <p>◎日本語教育プログラムの目的・目標に沿った教育計画が立てられるようになるために、コースデザインの方法について理解している。</p> <p>&lt;24&gt;教授法</p> <p>◎多様な学習者や環境に応じた教授方法を選択・活用できるようになるために、様々な外国語（第二言語）教授法について理解している。</p> <p>&lt;25&gt;教材分析・作成・開発</p> <p>◎日本語教育における教材の分析方法及び教材作成・開発の方法について理解している。</p> <p>&lt;26&gt;評価法</p> <p>◎日本語教育における評価に対する考え方や方法について理解している。</p> <p>&lt;27&gt;授業計画</p> <p>◎日本語教育における授業計画の立て方について理解している。</p> <p>&lt;29&gt;中間言語分析</p> <p>◎学習者の誤用の分析及びフィードバック方法について理解している。</p>
------------------------	---



	<p>&lt;30&gt;授業分析・自己点検能力</p> <p>◎常に学び続ける素地を養うために、授業を客観的に分析する方法を理解し、授業の自己点検・相互評価を通じてその方法を実践できるようになる。</p> <p>&lt;31&gt;目的・対象別日本語教育法</p> <p>◎求められる日本語教育プログラムの目的や目標を踏まえた授業を実施するために、目的・対象別の日本語教育プログラムについて理解している。</p>
⑪ 異文化間教育とコミュニケーション教育	<p>&lt;32&gt;異文化間教育</p> <p>◎異なる文化を持つ人々の間で生じる様々な問題を克服し、文化の多様性を尊重し、異なる文化背景を持つ者が共生に向けて円滑な関係を築くために必要となる異文化間教育に関する基礎的な知識について理解している。</p> <p>&lt;33&gt;異文化コミュニケーション</p> <p>◎異なる文化的背景を持つ人々と円滑なコミュニケーションを行うために必要な知識と技能を理解している。</p> <p>&lt;34&gt;コミュニケーション教育</p> <p>◎学習者の日本語によるコミュニケーション能力を育成するために、コミュニケーション教育の理論及び手法について理解している。</p>
⑫ 言語教育と情報	<p>&lt;35&gt;日本語教育と ICT</p> <p>◎授業実践や学習管理、教材作成等に必要となる ICT の効果的な活用方法について理解している。</p> <p>&lt;36&gt;著作権</p> <p>◎日本語教育活動を行う上で必要となる情報資源の扱い方について理解している。</p>
⑬ 言語の構造一般	<p>&lt;37&gt;一般言語学</p> <p>◎世界の言語及び日本語を系統的・類型的に捉え、言語を客観的に分析する方法を理解している。</p> <p>&lt;38&gt;対照言語学</p> <p>◎教育実践に活用するために、日本語を他の言語と比較し、相違点・共通点を分析する方法を理解している。</p>
⑭ 日本語の構造	<p>&lt;39&gt;日本語教育のための日本語分析</p> <p>◎日本語を分析的に捉える方法を理解している。</p>

	<p>&lt;40&gt;日本語教育のための音韻・音声体系</p> <p>◎日本語の発音指導に必要となる音韻・音声に関する知識を理解している。</p> <p>&lt;41&gt;日本語教育のための文字と表記</p> <p>◎日本語の文字指導に必要となる日本語の書記体系に関する知識を理解している。</p> <p>&lt;42&gt;日本語教育のための形態・語彙体系</p> <p>◎日本語の形態論と語構成を理解し、語彙指導に必要となる知識を理解している。</p> <p>&lt;43&gt;日本語教育のための文法体系</p> <p>◎日本語教育のための文法を体系的に学び、指導上必要となる分析方法について理解している。</p> <p>&lt;44&gt;日本語教育のための意味体系</p> <p>◎日本語教育のための意味体系に関する知識を体系的に学び、指導上必要となる分析方法について理解している。</p> <p>&lt;45&gt;日本語教育のための語用論的規範</p> <p>◎日本語教育のための語用論的規範について学び、効果的な教育実践方法を理解している。</p>
⑮ コミュニケーション能力	<p>&lt;46&gt;受容・理解能力</p> <p>◎受容・理解能力について理解し、学習者の受容・理解能力（読むこと・聞くこと）を向上させるための方法を理解している。</p> <p>&lt;47&gt;言語運用能力</p> <p>◎言語運用能力について理解し、学習者の言語運用能力（話すこと・書くこと）を向上させるための方法を理解している。</p> <p>&lt;48&gt;社会文化能力</p> <p>◎日本語での社会言語的な適切さに関する知識や社会文化的知識について理解し、学習者の社会言語能力及び社会文化能力を向上させる方法について理解している。</p> <p>&lt;49&gt;対人関係能力</p>

	<p>◎多様な価値観を持つ関係者や、学習者を取り巻くコミュニティと連携して教育実践を行うため、日本語教育人材として求められる対人関係能力について理解し、自らの対人関係能力を向上させることができる。</p> <p>&lt;50&gt;異文化調整能力</p> <p>◎教師として多様な関係者と連携・協力する上で必要となる異文化理解能力や、異文化接触場面における摩擦を調整するコミュニケーション能力について理解し、自らの異文化調整能力を向上させることができる。</p>
--	---

## 2. サンプル問題

サンプル問題として、令和5年度に実施された日本語教員試験試行試験に出題された問題の一部を以下の通り公開する。

### 基礎試験

**問題1** 次の(1)～(8)について、【 】内に示した観点から見て、**他と性質の異なるもの**を、それぞれ1～4の中から一つずつ選べ。

(5) 【接尾辞「化」の意味】

- 1 情報化
- 2 有料化
- 3 自由化
- 4 義務化

**問題2** 次の(1)～(6)の問いに答えよ。

(4) 次の文章中の空欄 (ア) に入れるのに最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

文部科学省が令和3年度に実施した「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」によると、日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は4万7千人以上にのぼる。これらの児童生徒を言語別に見ると、(ア) 母語話者が最も多い。

- 1 中国語
- 2 ベトナム語
- 3 フィリピン語
- 4 ポルトガル語

**問題3** 次の(Ⅰ)～(Ⅱ)の問いに答えよ。

(3) 言語学習において、学習者は学習を促進するための様々なストラテジー(方略)を用いられると言われている。このような学習ストラテジーのうち「メタ認知ストラテジー」の例として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 教師に質問し説明を求める。
- 2 テキストの文脈から意味を推測する。
- 3 学習計画を立てて、随時進捗を確認する。
- 4 目的に応じた聞き方や読み方を選択する。

(9) コミュニケーション・ストラテジーの一つであるコード・スイッチングが**起こっているとは言えない例**を、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 ダイグロシア社会において、二人の話者がそれぞれ別の言語を話しているが、コミュニケーションが成り立っている。
- 2 バイリンガル話者の中にモノリンガル話者が一人含まれている会話において、話の途中でバイリンガル話者がモノリンガル話者の理解できない言語で話し始めた。
- 3 マルチリンガル話者が一つの言語でスピーチをしていたが、民族のアイデンティティを示すために途中で別の言語で話し始めた。
- 4 友人同士が地域で日常的に使用する方言で話していたとき、一人がもう一人に頼み事をしたが、相手は方言ではなく公的に使われている共通語を使って断った。

**問題13** 次の文章を読み、後の問い（問1～5）に答えよ。

実際に日本語の授業を実施する際には、コースデザインを行う。調査・分析の段階では、学習者や教師、学習環境について把握することが重要である。コース目標の設定、aシラバスやカリキュラムデザインに関わるためである。

近年、文化庁によってb「日本語教育の参照枠」が策定され、その使い方の手引が取りまとめられた。そこでは、c行動中心アプローチの考え方に基づく言語能力記述文（Can do）をベースとしたカリキュラムデザインの考え方として、dバックワード・デザイン（逆向き設計）が紹介されている。日本語教師には学習者の目的・目標に合った内容と教え方を選ぶこと、学習目標の達成状況を確認するための評価方法を決めることが求められる。学習目標の到達度を評価する方法には、「言語知識を測るテスト」、e「パフォーマンス評価」などがある。

**問1** 文章中の下線部a「シラバス」とその特徴の説明として**不適当なもの**を、次の1～4の中から一つ選べ。

シラバス	特徴
1 機能シラバス	「読む」「書く」「話す」「聞く」を中心にさらに細かく分類して学習項目を一覧にしたもの。
2 構造シラバス	文型や文法を中心に易しいもの、単純なものから難しいもの、複雑なものへと体系的に整理して学習項目を一覧にしたもの。
3 話題シラバス	学習者の興味・関心や社会情勢に応じて話題を決め、話題に関する語彙や表現などを一覧にしたもの。
4 課題シラバス	何かの課題の達成のために必要な文型や、語彙、社会文化的知識、技能等を一覧にしたもの。

問2 文章中の下線部b「日本語教育の参照枠」に関する記述として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 4技能について、バランスよく能力を伸ばすことが望ましいとされている。
- 2 漢字に関しては、常用漢字表を基にレベル別の基礎漢字の目安が示されている。
- 3 言語能力記述文では「母語話者」ではなく、「熟達した日本語話者」が使われている。
- 4 「特定技能」の資格等で来日する人に求められる基礎的なコミュニケーション力を育成する。

問3 文章中の下線部c「行動中心アプローチ」における言語教育観に関する記述として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 母語習得の過程に注目し、教師は沈黙し、学習者の知性の発揮と自立を助ける観察者、助言者となる。
- 2 学習者にとって必要な活動に注目し、学習者が日本語を使ってさまざまな社会的な活動に参加していくことを目指す。
- 3 学習者が話したい内容を自由に話し、話し合い後に、発話の録音を再生し、表現の確認、発音や文法の指導をする。
- 4 媒介語による翻訳を行わず、聴解力を重視し、教師のさまざまな命令や指示を聞いて、学習者が全身で反応するという方法を用いる。

問4 文章中の下線部d「バックワード・デザイン（逆向き設計）」の手順として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 到達目標の決定→評価方法の決定→学習内容と教え方の決定
- 2 到達目標の決定→学習内容と教え方の決定→評価方法の決定
- 3 評価方法の決定→到達目標の決定→学習内容と教え方の決定
- 4 学習内容の決定→到達目標と評価方法の決定→教え方の決定

問5 文章中の下線部e「パフォーマンス評価」に関する記述として**不適当なもの**を、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 学習者にロールプレイやエッセイなどの言語的な課題を与え、その遂行の度合いを評価することができる。
- 2 評価の観点を明示することで、個人的な価値判断による影響を避け、達成すべき目標を学習者と共有することができる。
- 3 単に、「できた・できない」だけの評価だけでなく、「何がどのくらいできたのか」について、多様な観点から評価を行うことができる。
- 4 学習者が創造した作品や評価記録を収集し、それをもとに学習過程をふり返ることで学習成果の評価のツールとして使うことができる。



## 問題 1

これから聞く日本語学習者の日本語には、発音、語彙、文法、談話などのさまざまな誤りが含まれています。それぞれの発話の誤りがどのようなになっているか、あるいは、その誤りが何の誤りかについて、最も適当なものを、問題用紙の選択肢A、B、C、Dの中から一つ選んでください。

### 例

- A /オ\カ/セ ン タ ー ニ シ エ キ
- B /オ\カ セ ン タ ー ニ/シ エ キ
- C オ/カ セ ン\タ ー ニ/シ エ\キ
- D オ/カ セ ン タ ー ニ シ\エ キ

[例の音声](#)（クリックすると音声がかかります。）

## 15番

- A アスペクトの誤り
- B ダイクシスの誤り
- C メトニミーの誤り
- D コロケーションの誤り

[15番の音声](#)（クリックすると音声がかかります。）

## 問題2

これから、教室での教師と日本語学習者のやりとりなどを聞きます。それぞれについて、問いが複数あります。それぞれの問いの答えとして最も適切なものを、問題用紙の選択肢A、B、C、Dの中から一つ選んでください。（この問題には例がありません）

### 8番

問1 このような練習方法に最も関連のある教授法は、次のうちどれですか。

- A サイレント・ウェイ
- B コミュニカティブ・アプローチ
- C オーディオリンガル・メソッド
- D コミュニティ・ランゲージ・ラーニング

問2 コミュニケーションで問題が起こらないようにするために、この後、学習するのが望ましい肯定／否定の応答表現は、次のうちどれですか。

- A 「ええ、どうぞ。」／「すみません、ちょっと…。」
- B 「～でも大丈夫です。」／「～なくても大丈夫です。」
- C 「どうぞ～てください。」／「いいえ、～てはだめです。」
- D 「はい、～てもいいです。」／「いいえ、～てはいけません。」

[8番の音声](#)（クリックすると音声聞けます。）

## 問題3

これから、日本語学習者向けの聴解教材などを聞きます。それぞれについて、問いが複数あります。それぞれの問いの答えとして最も適当なものを、問題用紙の選択肢A、B、C、Dの中から一つ選んでください。(この問題には例がありません)

### 4番

ア

イ

ウ

エ

オ

カ

キ

刺身定食 1100円

焼き魚定食 980円

焼肉定食 980円

カツ定食 1000円




コロッケ定食 980円

あじフライ定食 980円

コーヒー／紅茶 100円

定食メニュー

ランチ・サービス



1 ア キ

2 ウ キ

3 ウ

4 エ

問1 この聴解問題は初級学習者を対象としたものですが、いくつか改善すべき点があります。**改善する必要のないこと**は、次のうちどれですか。

- A 日本の料理についての知識が求められること
- B 答えを導き出すための情報が不足していること
- C メニューに未習の漢字が多く使われていること
- D 会話の途中でスピーチレベルシフトが行われていること

問2 初級授業でこの聴解問題を扱った後に行う活動として最も適当なものは、次のうちどれですか。

- A 聴解素材より丁寧な接客表現を学習者に考えさせる。
- B 外食や定食について、学習者の国の特徴を紹介し合う。
- C 物の値段を8桁まで言えるようになるまで、繰り返し練習する。
- D アルバイト代を上げるよう、食堂の店長に交渉するロールプレイを行う。

[4番の音声](#) (クリックすると音声聞けます。)

## 問題7

大学の交換留学生を対象とした日本語会話クラスで、以下のようなロールプレイを実施した。資料1～3を読み、後の問い（問1～5）に答えよ。

〈資料1〉 クラスの概要と使用したロールカード

レベル：中級前半                      学習者数：8名

使用したロールカード

【ロールカードA】

あなたは大学の交換留学生です。  
来週、両親が日本に来るため、授業を休んで空港へ迎えに行きたいと考えています。先生に欠席することを伝えてください。

【ロールカードB】

あなたは大学の先生です。学生から来週の授業を欠席することを報告されます。理由を聞いて、許可してください。

〈資料2〉 授業のおおまかな流れ

aウォーミング・アップ ⇒ ロールカードを読む（3分） ⇒ ペアで練習する（5分）  
⇒ ペアごとに発表し、bクラスで気づいたことをコメントし合う（20分） ⇒ 必要な表現の練習をする（10分） ⇒ もう一度、ペアを変えて発表をする（15分）  
⇒ まとめ

〈資料3〉 ある学習者ペアの会話の書き起こし

学習者A（学生）：先生、こんにちは。

学習者B（先生）：こんにちは、Aさん。どうしましたか。

学習者A（学生）：来週、両親が日本に来るため、授業を休んで空港へ迎えに行きたいです。

学習者B（先生）：そうですね。いいですよ。

問1 この授業のように、文型や表現の導入よりも先にロールプレイを行うタイプのロールプレイ（タスク先行型ロールプレイ）の長所として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 既習項目と未習項目の差が見えやすいので、効率的に学習できる。
- 2 決まった表現を使わなくてもよいため、文化的なルールの強制を避けることができる。
- 3 事前に言語項目を練習する必要がないので、学習者の心理的な負担が軽減される。
- 4 「言いたいけれどうまく言えない」というタスクの過程から、表現についての学習者の気づきが促されやすい。

問2 資料2の下線部a「ウォーミング・アップ」として行うのに最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 このロールプレイのモデル会話をまず音声で聞く。
- 2 許可を得る表現「～てもいいですか」の口慣らしを行う。
- 3 ロールプレイの内容に影響しないよう、あえて関係のない話をする。
- 4 授業を休んだ経験やその理由、そのとき先生に事前に話したかなどについて聞く。

問3 この授業で行ったロールプレイの問題点には当たらないものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 学習者Aには身近な状況だが、学習者Bには自分の実際の生活で行う言語行動ではない発話の練習になってしまう。
- 2 ロールカードAには、状況と話す内容しか書かれておらず、どうなれば会話を終わってよいかかわからない。
- 3 ロールカードBにはこれから何が起こり、どう回答すべきなのかが書かれてしまっており、会話の展開を考える余地がほとんどない。
- 4 この状況設定では、「休んでもいいですか」「休ませていただけませんか」「休みたいのですが」など、使用できる表現がいくつか考えられてしまう。

問4 資料2の下線部b「クラスで気づいたことをコメントし合う」について、コメントとそれに対する教師の対応として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 「あのう」や「えーと」といったフィラーが目立ったというコメントに対し、フィラーの適切な量やフィラーの効果などについてクラス全体で考え、2回目の発表に生かすよう促した。
- 2 イントネーションが不自然で怒っているように聞こえるというコメントに対し、音声的な癖は、許可を求めるというこのロールプレイの目的には関係ないとして、気にしなくてよいと励ました。
- 3 欠席することを伝える際に、ポケットに手を入れたままだったことを指摘するコメントに対し、確かに失礼になりかねないが、クラスでは言語についてのコメントに限定しようという方針を全体で共有した。
- 4 声が小さく話し方が大学の先生らしくないというコメントに対し、大学の先生らしい話し方についてクラス全体で考え、2回目の発表では気をつけるように促した。

問5 資料3の学習者ペアの会話の問題点をフィードバックする際、**指摘する必要性のないもの**を、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 学習者Aはあいさつの後すぐに許可を求めるのではなく、「今、ちょっといいですか」などの表現を使ったほうがよい。
- 2 学習者Aは一度にすべての要件を伝えるのではなく、まず「来週の授業のことなんですが。」でいったん文を切るなど、いくつかに分けて事情を説明したほうがよい。
- 3 学習者Bはすぐに許可を出すのではなく、学習者Aが「休んでもいいですか」など許可を求める表現を使うまで待ったほうがよい。
- 4 学習者Bの「いいですよ」で会話を終わりにするのではなく、二人がどのように会話を終わらせるのかまでそれぞれ考えたほうがよい。

## サンプル問題の解答

### ●基礎試験

問題 1	( 5 )	【正解】	1
問題 2	( 4 )	【正解】	4
問題 3	( 3 )	【正解】	3
問題 3	( 9 )	【正解】	1
問題 13	問 1	【正解】	1
問題 13	問 2	【正解】	3
問題 13	問 3	【正解】	2
問題 13	問 4	【正解】	1
問題 13	問 5	【正解】	4

### ●応用試験 1 (聴解)

問題 1	15 番	【正解】	D
問題 2	8 番 問 1	【正解】	C
問題 2	8 番 問 2	【正解】	A
問題 3	4 番 問 1	【正解】	D
問題 3	4 番 問 2	【正解】	B

### ●応用試験 2 (読解)

問題 7	問 1	【正解】	4
問題 7	問 2	【正解】	4
問題 7	問 3	【正解】	4
問題 7	問 4	【正解】	1
問題 7	問 5	【正解】	3